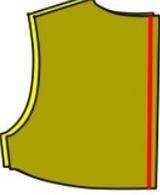
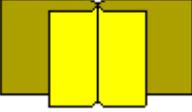
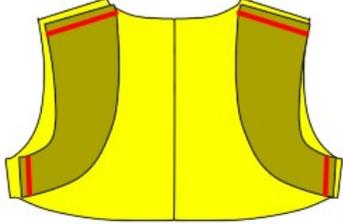
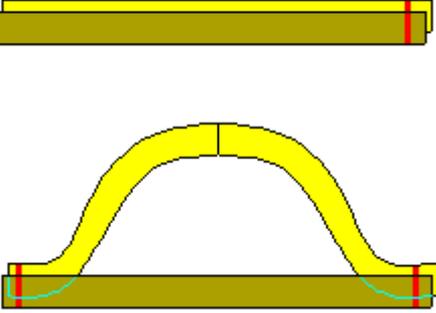
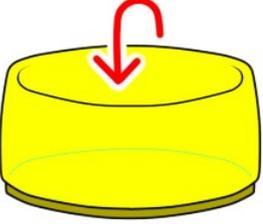
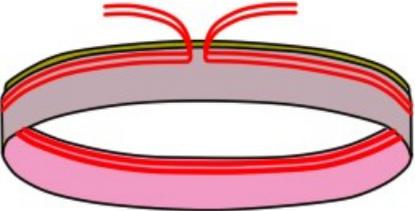
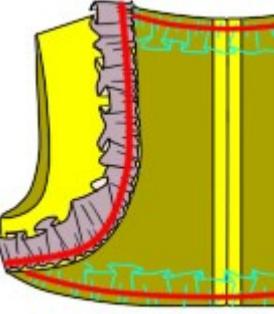
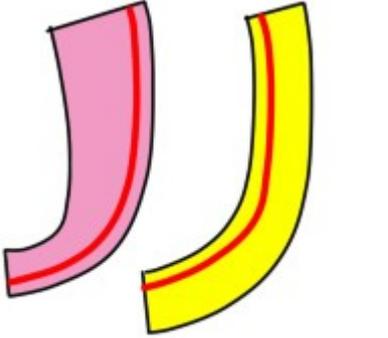
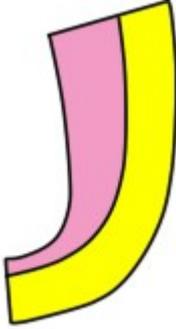
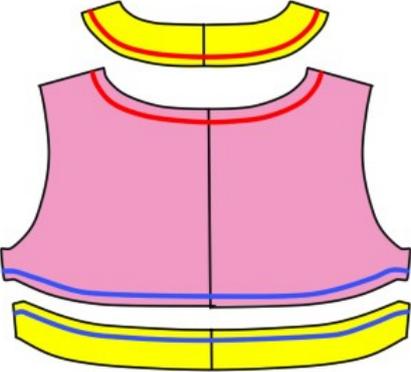
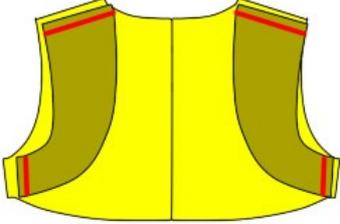
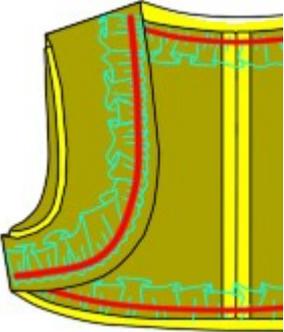
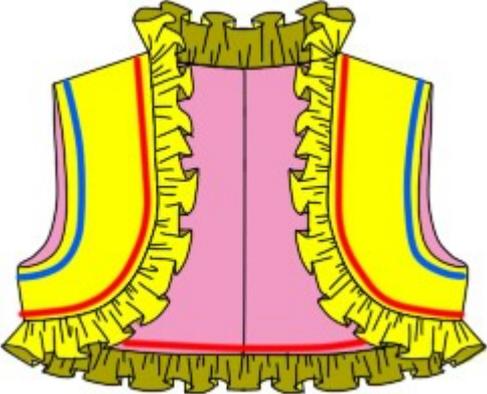


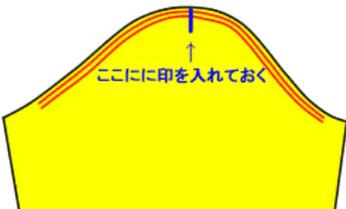
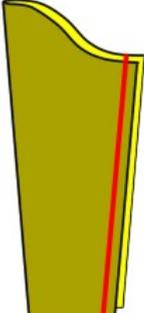
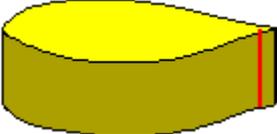
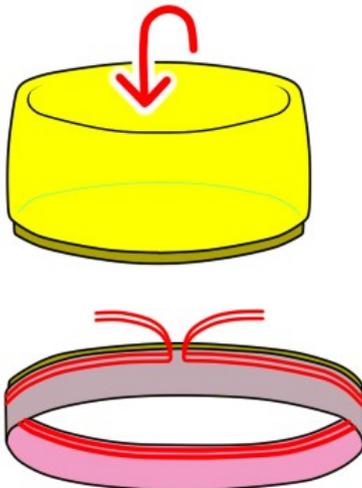
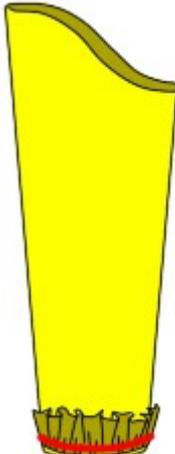
<p>■表 ■裏</p> <p>■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。 見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付ける くわしくは縫う前の下準備を参照</p>
	<p>後身頃の中心を縫います。</p>  <p>縫い代は左右に割って開いておく。</p>
	<p>裏を上にして前身頃を重ねる。</p> <p>方と脇を縫う。</p>
	<p>フリルを縫う。</p> <p>3枚を縫い合わせて輪にする。</p>
	<p>二つ折りにする。</p>
	<p>裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。</p> <p>縫う前の下準備参照</p>
	<p>ギャザー縫いが終わったら糸の調子を元に戻す。</p> <p>ギャザーを寄せながらぐるっと一周フリルを縫いつける</p>

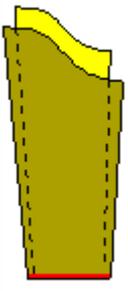
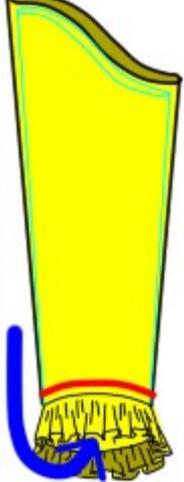
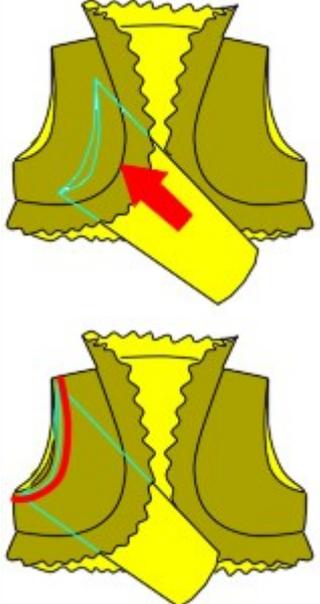
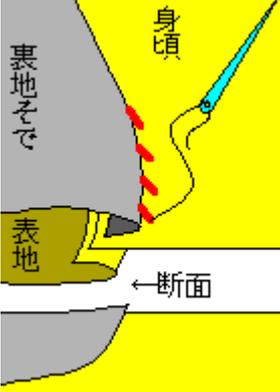
	<p>後の裏地の後中心を縫う。</p> <p>縫い代は片側に倒す</p> <p>裏地には少し余裕が入っています。裏地が表地より少しでも小さいと引きつってしまうので、余裕を入れてあります。大きい分を調節することは簡単ですが、小さいものを大きくするのは難しいので、裏地だけはちょっと余裕を持っておくと綺麗に仕上がりますよ！</p>
--	---

	<h3>裏地を綺麗に仕上げるコツ</h3> <p>まず普通に1センチのところを縫う(図い) 5mm前後縫い代より内側をアイロンで折る。(図ろ) アイロンの温度は中～低温で。 温度が高いと素材によっては縮んだり、引きつったりすることがあります。 折り目を広げないように気をつけて生地を広げて、続きの作業をしてください(図は) 市販の裏地のついた洋服を見てみると、同様に折り目をつけて裏地に余裕を持たせているのを見ることが出来ますよ。 表地より裏地の余裕が少ないと、表が突っ張ったような感じになりますので、裏は多少ゆとりがあったほうが綺麗に仕上がります。 この折り目に余裕を持たせることを「きせをかける」といいます。 きせの幅はきっちりからはからなくていいですよ。 特に裏地は裁断している端からずれやすいので縫い合わせる相手の場所にあう長さになるように臨機応変にずらしてください</p>
--	--

	<p>後の見返しを表が内側になるように重ねる。後中心を縫う。</p> <p>縫い代は左右に割る。</p>
--	--

	 <p>前の見返しと裏地を縫い合わせる</p>
	 <p>後の見返しと後の裏地を縫う</p>
	<p>見返しと裏地を縫ったら、前後の身頃を内側が表同士になるように重ねる。</p> <p>肩と脇を縫う。</p>
	<p>表同士が内側になるように表地と裏地を重ねる。</p> <p>えりからすそを縫う</p>
	<p>そでの所から表に戻します。</p> <p>えりとすそ端から 5 mm の所を縫う。</p> <p>そでのカーブも裏地がずれないように 5mm の所を縫って表と裏地を固定する。</p>

	<p>そで山にギャザーを寄せる</p>
	<p>そでの底を縫う。 同じように裏地も縫う</p>
	<p>そで口のフリルを二つ折りにして端を縫う。</p>
	<p>半分に折る ギャザー縫いをする</p>
	<p>そでを表に返す。 そで口にフリルを縫いつける</p>

	<p>裏地と表地を。表が内側になるように重ねる。</p> <p>そで口を縫う</p>
	<p>裏地を中に入れる</p> <p>フリルを引っ張り出す。</p> <p>そで口を縫う</p>
	<p>最後に、そでと本体を表同士が内側になるように重ねる。 この時そでの裏地はよけておく。</p> <p>そで山の中心と肩、そで底の縫い目と、脇の縫い目をあわせる。</p> <p>ギャザーの量を調節しながら細かく待ち針で止める。</p> <p>端から 8mm の所を手縫いで縫う。(しつけ)</p> <p>ミシンで 1cm の所を縫う。</p> <p>ミシンで縫ったらしつけ糸は抜く。</p>
	<p>裏地の袖山は、アイロンで縫い代を内側(中に隠れる方)に折ってから、待ち針で袖ぐりにとめて手縫で表に目立たないように縫いとめておきます。</p> <p>まつり縫いの動画</p>

お好みでフリルをレースにしたり、フリルの幅を変えて2段にしてもいいですね。

あと付けずに作ってもかわいいです。

★必要な材料

生地、裏地、接着芯、糸 60 番 針 11～14 番 お好みでフリルをレースにしてもOK

★このデザインに適した素材

・別珍

毛並みのある生地。

高級感がでる。

毛並みに向きがあるので、裁断するときは上下の向きを合わせてカットしてください。

ツイル

とりあえず安く縫いやすいものという方にはこちらをおすすめします。

中厚地の生地なので縫いやすいです。

・ポリエステルツイル

写真の衣装に実際に使用したのは↑こちらのポリエステルツイルです。

厚みがありパリッと仕上がります。

・ニット 裏地をつけず、表地と見返しだけで、ニットで作っても可愛いですよ。

ニットだと切りっぱなしでもほつれにくいので、ふんわりしたフリルに仕上がります。

★関連説明書

縫う前の下準備